

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693400042		
法人名	社会福祉法人日吉たには会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 はぎの里 オアシスショウブユニット		
所在地	京都府南丹市園部町横田2号111-1		
自己評価作成日	平成26年10月27日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・御利用者が共同生活の中でも個々のペースで安心して生活して頂ける様、サービスの提供に努めています。また、趣味の裁縫や絵描き、料理など今ある能力を最大限に発揮できる場をつくり継続できるよう支援しています。</p> <p>・地域の行事に参加させて頂き、地域住民の方とふれあう機会を作っています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成26年11月28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>南丹市園部町の駅近く、山のふもとで田がひろがる地域に新築された事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、地域密着型特養、地域に開放されたレストランとの併設で、3階がグループホームである。中央を吹き抜けとし、廊下からもどの部屋からも四季の風景が楽しめる。廊下を自由に行き来して利用者同士が交流している。居間兼食堂も居室も縁側から草の生えた土地に出ることができ、3階に居ることを忘れさせる。建物と調度品の木のぬくもりが、利用者に居心地のいい住まいとなっている。昨年の水害から立ち上がり、利用者も職員も地域住民が多く、意欲ある職員集団とともに体制づくりをしている。利用者がめがねをつくりたいので、京都市内のデパートに行きたいと、職員が同行し、馴染みの店員に会えて利用者は満足している。こうした個別ケアに力を入れている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが				

24	秋は又旅により、又心して看るにしている (参考項目:28)	3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
----	----------------------------------	------------------------------

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を元に日常生活の支援をしています。全職員がいつでも確認出来るよう、職員室内に掲示している。	グループホームの理念は法人の理念を踏まえて「ご利用者一人ひとりの思いをくみ取り、楽しく安心して生活していただける場4をつくります」と定め、玄関、スタッフ室に掲示し、利用者・家族に説明、職員研修を実施している。年度ごとに確認している。理念にそって利用者一人ひとりのくらしのペースを大事にし、朝食は一人で静かに食べたい利用者には居室まで配膳している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、敬老会や運動会等の地域行事に参加している。買い物などで町内の商店を利用し地域との交流の機会としている。	自治会に加入し、法人の広報誌は全戸配布している。年間行事を知らせてもらい、夏祭り、敬老会、運動会等に参加している。氏神さまの秋祭りは神輿や屋台の見物が楽しみである。利用者は付近の散歩や買物時に近所の人と交流している。小学校から体験学習に来訪し、参加した小学生がボランティアで歌を歌いにきてくれる。高校生の実習も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会でのサポーター養成講座開催や、小学校や・高等学校等、施設見学や実習の受け入れ、ボランティアの受け入れを通じて、認知症理解のを広めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の開催の中で、事業所の近況報告を行っている。また、ご家族・地域・行政から貴重なご意見を伺う機会となっている。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所、地域密着型特養とともに開催しており、それぞれの利用者・家族、地区区長、地区老人クラブ会長、民生児童委員、市高齢福祉課、地域包括支援センターが委員となり、隔月に開催し、記録を全家族に配布している。事故や苦情等も含めて事業所からの報告は文書ともにビジュアルでもみせている。会議では地域の情報交換等が話されている。	運営推進会議には地域の社会資源の人たち、消防署、駐在さん、小学校の校長先生やPTAの人、スーパーの店長等々、幅広い人たちに参加してもらい、認知症の理解を含めて事業所のサービスの質の向上を目指すことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の他、必要に応じ市の担当課と連携をとっている。	日常的には南丹市高齢福祉課と報告や相談を怠らず、連携を保っている。困難事例はない。南丹市に事業所連絡会はないものの京都府グループホーム協議会参加し情報交換や施設見学等をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事例はないが、職員研修を実施している。必要に応じマニュアルの見直しも行っている。	「身体拘束をしないケア」について重要事項説明書に明記し、マニュアルを作成し、職員研修を毎年実施している。マニュアルについては見直しを検討し、「利用者の状況によっては施錠をすることもある」という条項を入れている。職員はスピーチロックについても認識している。身体拘束の事例はない。玄関ドア、エレベーター、グループホームのドア等、すべて施錠やロックはされていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年法人で研修を開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で研修を開催しているが、現在制度を利用されている方がないこともあり、職員の制度への理解は不十分であると考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明だけでなくご家族の思いに耳を聴け、十分時間をとっている。入居後も、必要に応じ説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡・運営推進会議等で頂いたご意見は職員間で申し送り随時対応している。今後は家族交流会の開催等でご利用者・ご家族・職員間の信頼を深める場を作っていくことが課題となっています。	家族は多い人は毎月面会にきている。毎月家族には職員異動や行事報告をしている。グループホームの行事には招待していない。家族同士が交流する機会はない。「近所の人や親類が面会にきてくれたり、おみやげをもらったりしたときは、家族に報告してほしい」という家族の意見により改善している。	家族にはグループホームで実施する行事や外出等に招待し、利用者と共に楽しむ機会をつくること、家族交流の機会を設定すること、以上の2点が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議に管理職が出席、各会議の報告・委員会活動の報告相談を行い、反映させる機会としている。	法人の会議、併設施設の会議、ユニット会議を毎月実施し、運営とケースについて検討している。職員は利用者を担当しており、ケースについての意見を述べ業務についても「はさみ等を食堂の引き出しにいれておかないほうがいい」「夜勤のときは1人なのでケアの判断困ることもある」等、活発な意見交換をし、改善している。異動や研修受講は職員の希望を聞いている。一人ひとりの職員目標はリーダーが面接し、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課面接以外に、要望や思いを聞く場としての面接を実施している。各職員の担当業務や意欲を評価出来るよう、努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を作っている。介護技術については研修や職員間で勉強、伝達し取得している。面談を実施し個人の力量が向上するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設合同の運動会に参加するなど、交流の機会が少しずつ増えてきた。今後も、他施設との交流などを通じて、情報交換を行いサービスの質向上につなげたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接での情報を大切に信頼関係の構築に努めている。また日々のご利用者とのコミュニケーションの中で心身の状態を把握し、安心して生活して頂ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後もご家族の思いを傾聴している。その情報を職員間で共有し、その時に合った対応が出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報と面接を中心に、ご利用者、ご家族の要望を把握、必要な支援を提案・提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	余暇活動や食事に関する事では、ご利用者の経験や趣味を生かしたものとなるよう意識している。職員がご利用者に教わる事も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や連絡を取り合う中で、ご家族・ご利用者間の情報共有を基に、ご自宅での行事に参加して頂くなど、家族との関係も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自由面会して頂ける環境・行きつけの美容院などに出掛けることで、馴染みの関係が継続出来る様にしている。また、自宅のある土地へドライブに出掛け、思い出話を聞きその後の支援に繋げる事も実施している。	美山町出身の利用者とドライブして昔住んでいた家へ行き、利用者は懐かしそうに話している。お姉さんに会いたいという利用者に同行している。亡夫が好きだったので、老舗の和菓子店へ同行して気に入ったお菓子を買って、利用者は仏壇に供えている。教え子の手紙に返事を書く支援をしている。行きつけの美容院へ同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の人間関係を把握した上で、必要に応じ職員が入り、コミュニケーションが円滑にとれるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご本人への面会や、ご家族とのお会いした際に会話を交わしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面接で、ご本人・ご家族から直接希望や思いを聞き取り把握に努めている。ご家族とは、面会時に状況報告と共にその都度の希望確認を行っている。ご本人とはコミュニケーションを図る中で思いや希望を聞き把握に努めている。	利用開始時には利用者、家族から情報を聴取している。利用者の思いは「自分なりにマイペースで暮らしていきたい」「お世話になります」「」等が記録されている。生活史や好きなこと、仕事歴等の記録はない。	利用者を理解し、グループホームでの生活をつくっていくために、利用者を取りまく隣人、友人、趣味の仲間、仕事仲間等から情報を聴取すること、利用者の生活史を収集すること、以上の2点が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の自宅訪問で生活環境の把握に努めると共に習慣にされていたことなどの聞き取りなどを通じて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の過ごし方や、心身の状態把握に努め、申し送りを中心に職員が把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が介護計画の内容を把握するための計画一覧表を作成している。また独自のモニタリング表を基にカンファレンスで検討し、3ヶ月ごとに見直しを行っている。現在では、個々に合った計画が立案できるようになった。	介護計画は作成担当者が家族や職員の意見を入れて作成している。身体介護の項目が多いものの、「外出行事に参加」等、生活の楽しみも入っている。介護記録は時間ごとに利用者の様子を書いているものの、介護計画と連動していない。モニタリングは「実行状況」「利用者・家族の意見」「充足度」「対応」について、記している。	介護計画は身体介護については自立支援の項目を明確に記すこと、その他にいきがちなような暮らしの楽しみ項目を入れること、介護記録は介護計画を実施した際の利用者の表情や発言、拒否があればその要因等を記し、モニタリングの根拠となるようにすること、以上の3点が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は主にコンピュータソフトに入力している。これまでからの記録不足を解消する為、必要に応じ職員へ指導を行った結果、量・内容共に向上したと考えている。気づき・報告、業務連絡は会議や申し送りノートを活用し情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人ご家族のご希望に応じ可能な範囲で柔軟な対応を実施している。体調不良やADL低下にも、その時々合った個々の対応を実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間を通じて地域行事に参加している。またご家族の協力も得て、地域に出かける機会もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけに受診されている。緊急時は施設の協力医療機関に受診している。	利用者の従来のかかりつけ医を大切に、家族が定期受診は同行しており、ホームで把握している情報は「情報提供書」に記し、家族を通じて医師に提供している。医師の診断も電話で聴いたり、文書でくれる医師もある。認知症については南丹病院に受診して今後は専門医の受診を予定している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子、関わりの中から得た情報や気づきは、その都度看護職に相談し職員間で共有、必要に応じて受診出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、的確に情報が得られるよう、また円滑に退院し元の生活が送れるよう、付き添いやムンテラへ出席している。入院された場合は定期的に面会し、ご本人の様子・病状確認等の情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご意向をお伺いする他、主治医より終末期と判断された場合は、随時相談を受けることとしている。職員はターミナルケアの研修を受け、支援のあり方を学んでいる。	利用者の重度化や終末期に関して、ホームの方針の文書化はないものの、利用者・家族の希望があれば対応する方針である。職員の気持ちも一致しており、研修を受講している。最近終末期であると医師から判断された利用者について、家族からも強い希望があり、ホームで看取りを実施している。職員も達成感を感じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は、マニュアルを基に行動する事としている。全職員、3年に1回救急救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画で、避難訓練を年2回計画している。昨年水害を受けて以降は、今後を想定し地域との連携の見直し等の対策を運営推進会議などで協議している。	消防署の協力を得て年2回の火災対応、風水害対応の避難訓練を実施している。地域の人の協力はなく、地震や夜間対応等の訓練はできていない。備蓄を準備し、ハザードマップを掲示し、職員は危険箇所を認識している。AEDを備え、職員は救急救命訓練を受けている。	避難訓練には地域の人の協力を得ること、地震対応、夜間対応の避難訓練も含めてもう少し回数を増やすこと、以上の2点が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設で接遇研修を開催している。人生の先輩であるご利用者への接し方の他、認知症のご利用者への対応にも力を入れている。	利用者の尊厳とプライバシーを守るようしており、馴れ馴れしすぎる言葉は禁止しているものの、丁寧すぎる言葉も他人行儀と考えている。利用者同士の言葉のやり取りも課題であり、カンファレンス等で検討している。利用者の表情等で自己決定を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、自己決定出来る場面では、思いをくみ取り個別支援につながるよう働きかけている。日常生活では、強制はせずあくまでご利用者本位で生活して頂く事を前提としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方は決めていない。起床・食事・就寝時間などご希望に沿った時間に支援する事としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服など、ご本人の身にまつわるものは、ご本人の好みを取り入れ季節に合った服を着て頂いている。また、お化粧を促したり、美容院に出かけることへの支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	汁物作りから配膳、片付けまで役割を持って頂き意識的にして頂いている。また季節の食材を取り入れた料理などを一緒に作り、食べる事も楽しんで頂けるように計画している。	施設の厨房で調理済のものが運ばれてくる。ご飯とみそ汁は利用者とともに作っており、味付けのできる人もいる。盛り付け、後片付け等も利用者としている。厨房には献立や味付け等について意見を出している。オヤツと月1回の昼食は利用者のリクエストであり、巻きずし、すき焼き、流しそうめん等が実現している。畑で育てた野菜もサンドイッチや夏野菜カレーに使っている。食卓に花を飾り、職員も一緒に食べ、会話しながら食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節に応じて量を調節している。食事はカロリーも考えながら提供している。水分、食事の摂取量も記録し、保存している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄など個々に応じた口腔ケアを実施している他、就寝目にも口腔ケアを実施している。必要に応じ、見守り・介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで	排泄パターンを把握出来るよう記録し、トイレの声掛け・誘導を行っている。排泄物品もその方に合ったものを検討し試行している。	尿意のある利用者が多く、リハパン使用の人も用心のためである。夜間は声掛けで支援している。排便については水分摂取と運動で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自立されているご利用者の排便の有無の把握は難しいが、声かけでトイレ誘導しているご利用者については記録している事から排便コントロールを行っている。また十分な水分摂取して頂くよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を設定しているが、ご希望や体調により、随時入浴して頂く事としている。	浴室は広く、それぞれのユニットから入ると中は衝立で仕切られており、仲良しの利用者なら会話ができる。窓が大きく、四季の風景を楽しむこともできる。週2回の入浴を支援しており、利用者は職員との会話を楽しんだり、一緒に歌を歌ったりしている。入浴拒否の人には声掛けを工夫している。	入浴は週2回と決めることなく、利用者の希望があればできるだけその思いに添うように支援することが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者のペースで生活して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬内容を把握し誤薬、服薬忘れがないよう確認の徹底をしている。また、薬の変更があれば看護職に確認してもらう。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の得意とされていることを生活やレクリエーションに取り入れている。(料理や裁縫、塗り絵など)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節や天候に応じて随時外出している。ドライブや散歩、町内のスーパーに買い物といった日常のことから、お墓参りなど、ご利用者のご希望を取り入れ対応している。	利用者はふだん、建物の周囲を散歩したり、車で近くの店に買物に行ったりしている。近くの氏神さまへの初詣、スプリング日吉での紅葉狩り等、季節の外出をしている。丹波自然公園での花見はお弁当持参したもののあまりの寒さに早々に引き揚げています。サンドイッチが食べたい利用者や買いに行ったり、仏花を買いに行ったり等の個別外出をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご本人管理を基本としている。管理が困難な場合は預かることもある。買い物時の会計などで、経済活動の機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのやりとりされている方が数名入居されている。はがき、手紙でのやり取りは、事例がない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにはタペストリーや季節の飾りを取り入れている。もう少し家庭的な雰囲気を出せるようにしていきたい。	エレベーターで3階に上ると玄関に下駄箱、その上に季節の花を生けている。建物の真ん中が吹き抜け、周囲に2ユニットがあり、廊下や部屋から四季の風景を楽しめる。居間兼食堂の外にはウッドデッキと草の生えた土地もあり、野菜や花を植えている。室内は明るく、壁に大きなカレンダー、時計、手作りタペストリーを掛けている。認知症に刺激をあたえる強い光や大きな音はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	主にリビングがコミュニケーションの場となっているが、廊下に設置した椅子やご利用者の居室で気の合った方同士で過ごせる場所ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具などを自宅から持ち込んで頂き、居室環境を大きく変えないことで落ち着ける空間づくりに心掛けている。	利用者の居室は洋間と和室があり、洗面台、トイレを備え、ガラス戸の外に縁側と草の生えた土地があり、3階であることを忘れさせる。格子戸を開けた和室には押入れがあり、利用者は布団を敷き、絨毯、机、座椅子、テレビ、三面鏡、筆筒等、使い慣れたものを持ち込んでいる。座卓の上には書きかけの手紙、愛読書等、壁には自分が描いた色紙等をかけ、どの部屋も個性が溢れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室清掃など、ご利用者自身で出来ることは見守り、園芸等出来る事は見守りを中心としている。		